

伝統と多様性が調和するキャンパスへ

九州工業大学 学長 三谷 康範



あけましておめでとうございます。

明専会および会員の皆様方には、日頃より本学の教育・研究並びに学生の諸活動に対して格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類へと移行しました。その後、パンデミック中は閑散としていた温泉地や観光地が徐々に平静を取り戻し、今では海外からの旅行者で溢れ、活気に満ちています。

その一方で、不穏な世界情勢が深刻さを増し世界の分断が深まっています。これらの影響を受けて、資源、エネルギー、食料品を中心にあらゆ

るものの値段が急騰し、日々の生活にも多大な影響を及ぼしています。

大学の運営においても電気料金の高騰を筆頭に深刻な影響を受けております。このような中でも、海外派遣や海外からの学生・研究者の受け入れは順調に回復し、多くの外国人留学生がキャンパスに戻ってきています。キャンパスを歩いてみても、国籍や文化が異なる多くの学生がキャンパスライフを楽しんでいる様子が見られ、キャンパス内の多様性が着実に広がりを見せています。

明専会からは学生の海外派遣へのサポートや学生プロジェクト、教員の研究力向上に対する支援をいただいております。こうしたキャンパスライフの豊かさを増す大きな原動力になっておりますことに感謝申し上げます。

さて、昨年は明専会の各支部の総会や諸活動がオンラインから対面へと戻り、多くの活動にリアルで参加して、本学の現況を説明し、ご意見を

いただく機会を得ました。多くの会員の皆様の熱い思いを直に感じ、改めて明専の絆の強さを目の当たりにしました。こうした交流から参加に至った山川健次郎先生の顕彰会では、

山川先生が過ごされた会津の街を散策し、かつ、戊辰戦争の激戦の舞台となった場所を見て回り、山川イズムに刻まれた奥深さを体感してきました。

「技術に堪能なる士君子」を100年以上も前に唱えられた先見の明に、今改めて思いを馳せております。技術と士君子の結びつきを今日ほど切

実に求められる時代はないと思います。士君子としての心構えが今の混沌とした世界情勢を解きほぐす重要なキーワードになると考えられます。こうした武士道や騎士道の精神にもつながり、豊かな教養を背景にする士君子こそが世の中の進歩にエシカルに貢献できる工学系の人材として求められています。

本学の本部がある北九州市は市政60周年を迎え、新市長のもと新たなビジョンづくりが進められており、私もその策定委員として参加しています。本学は定常的に数千名の学生をこの北部九州に集め、学生たちが

この地で地域と共に課題の解決に生き生きと取り組んで、そして、将来に亘りこの地を愛し続けることに大きな価値があると進言しています。

事実、明専会の会員の皆様は卒業されたそれぞれのキャンパスに思いを繋ぎ、本学での生活を共通の話題として母校を軸に様々な交流が生み出されています。将来、起業や新規事業を目指した時に若き日を過ごした場所を創業の地に選んでいただくと、長期の時間軸で連携が深まればと願っております。

去年も本誌紙面を借りてご紹介したように各キャンパスの共創空間では在学生、OB／OG、企業、地域との活発な交流が進展しています。明専会会員の皆様にも一度訪ねてみてもらえれば幸いです。今年はいリカレント教育やスタートアップ創出をキーワードに新たな事業展開を予定しております。卒業生の皆様方ともこうした活動で関わりを深めることになろうかと考えておりますので、母校の活動に一層の注目をいただくことをお願いして、新年の挨拶に変えさせていただきます。